

令和2年度第4回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和3年3月13日(土) 午前10時～11時

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

(委員) 本多副委員長 梨本委員 高橋委員 高倉委員 小松原委員 西村委員
松本委員 遠藤委員 伏見委員

(事務局) 教育長 生涯学習部長 生涯学習部次長
中央図書館長 中央図書館副館長 総務係長 図書資料第2係長 総務係司書

4 傍聴人 1人

5 議題

報告事項

- (1) 東日本大震災被災体験記録制作について
- (2) 令和2年度図書館自己点検評価について
- (3) 予算委員会について

6 議事の概要

報告事項

- (1) 東日本大震災被災体験記録制作について、事務局より報告を行った。
- (2) 令和2年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- (3) 予算委員会について、事務局より報告を行った。

7 会議経過

報告事項

- (1) 東日本大震災被災体験記録制作について、事務局より報告を行った。
その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(意見) 3月11日に間に合わせるのは大変だったと思う。

(意見) 動画を確認したが大変参考になった。これからの防災を考えるうえで、貴重な資料である。

(質問) どのような経緯で図書館が事務局となったのか。

(回答) すでに「浦安震災アーカイブ」を運用しているが、資料の記録や保存は図書館の大きな役割の一つでもあるためである。

(質問) 企画は図書館から出たものか。

(回答) 市長からの指示もあったが、我々職員が何をしたのか、当時を知らない職員も増えている。災害が起こった時どう対応するか記録しておかなければいけないと考え、図書館で企画した。

(意見) 「浦安震災アーカイブ」には市民の体験談はあるが、職員の体験談はなかったので貴重である。

(意見) 記録として残すことが大事である。10年たつと人事異動もある中で、どのように継承するか、まとまった記録は必要である。

(意見) 今の小学6年生でも震災当時は2歳。当時のことを知らない子どもたちにどう伝えるかが課題だが、「浦安震災アーカイブ」により実際の映像を見せることができるので理解も早い。学校でも活用している。

(意見) 液状化という特殊な被害の状況は全国的にも珍しいので参考になると思う。

(質問) 体験記録の作成部数はどのくらいか。

(回答) 冊子を200部、DVDを50点作成した。図書館で貸出できるよう準備している。

(質問) 冊子は紙媒体だけなのか。

(回答) 「浦安震災アーカイブ」でPDFデータでも見られるようにしている。

(2) 令和2年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) 国会図書館のレファレンス協同データベースに参加しているメリットはあるのか。

(回答) 問い合わせの際には他の図書館が登録した類似の回答を参考にしている。浦安市のレファレンス事例も、内容について時間をかけて精査し登録や更新をする必要はあるが、他の事例を参照できるという意味でも効果はあると考えている。

(質問) 電子資料について、導入を検討とあるが、どのようなスケジュールとなっているのか。

(回答) 電子資料の導入は市の実施計画によって位置づけられているが、現在は延期となっている。計画では、第1段階として震災資料のデジタル化、第2段階として一般には販売されていない郷土・行政資料のデジタル化、その次が市販された電子書籍の導入としている。電子書籍はコロナ禍で導入が進んだ図書館もあるが、単価が高い、アクセスに上限がある、図書館が蔵書を蓄積するという役割があると考えると10~20年後どうなるか不明であるなど、課題は山積しているとの認識であり、今後の状況も見極めながら検討していきたい。

(意見) 活字離れの中で「紙」より「電子」、1回読んだらもう読まない世界となることを危惧している。図書館がどういう形で電子書籍に取り組むかは避けて通れない。できるだけ早く市民を巻き込んで検討していくべきだと考える。

(回答) 他の自治体で実施している電子書籍だけでなく、活字を読むことが難しい方向けのオーディオブックなど、障がい者サービスという面も含め、広い意味で検討していきたい。

(意見) 電子資料の導入は課題が多い。話題性はあるが慎重に検討してほしい。図書館協議会で協議してもよいのではないかと思う。

(3) 予算委員会について、事務局より報告を行った。
その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(意見) 令和3年度予算は全国的にどこの図書館も厳しいと予想される。

(意見) 子ども図書館の計画が中止でないことに安心した。近いうちの再開に期待したい。

(意見) 子ども図書館の見送りは致し方ないと思う。

(意見) 市の予算は単年度でしか示されないが、固定費と変動費としてみると、固定費が増え、サービスに係る変動費が減るという赤字のパターンが読み取れる。図書館サービスはいつになれば元に戻るのか。中長期計画でみないとわからない。

(回答) 昨年度公表した実施計画ではこれまで通りの図書館運営が示されており、子ども図書館の建設も含まれていた。しかしながら、コロナ禍が財政を圧迫、来年度の予算額は10%減が見込まれ、図書館だけでなく市の事業すべてがマイナス査定となっている。中長期計画としては、コロナがどうなるか、これまで通りの財政運営ができるかは市の財政状況による。実施計画は2年ほど後ろ倒しで行っていくが、何年で元に戻せるかはコロナ収束後としか申し上げられないところである。

以上